



事業者：株式会社農業総合研究所

計画概要

- 現在展開中の農産物流通事業の拡大と、取引品目の需給バランス改善を目的とした新たな流通事業※の推進のため、関東で3拠点に現在分散している物流・加工機能のうち、2拠点を統合・整備することで、物流費の削減を図る。
- 新拠点でQRコードによる商品管理とトレーサビリティシステムを導入し、処理効率の向上を図る。

目標

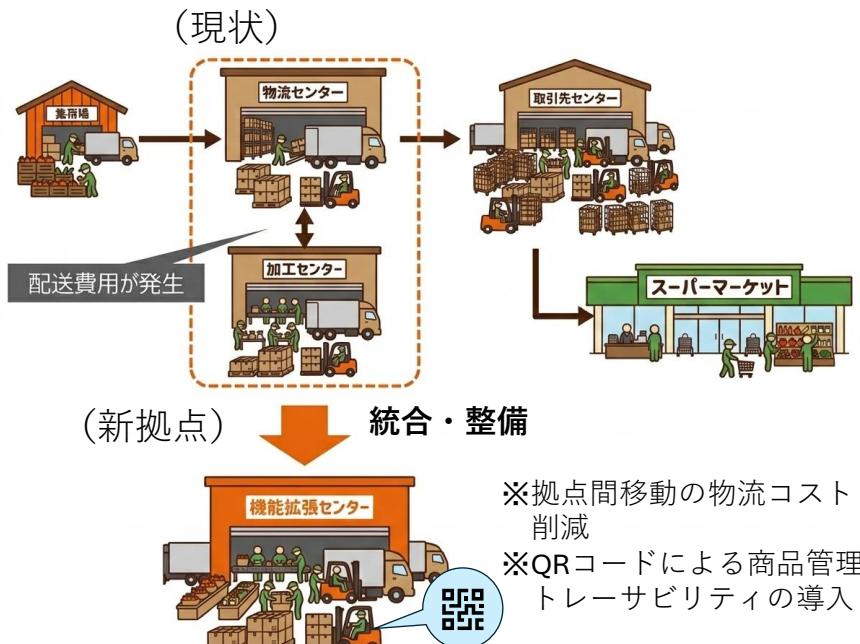
- 新拠点の整備により、コンテナ当たりの単位流通コスト（円/cs）を2030年までに3.2%削減する。
- 拠点全体での処理効率（年間流通コンテナ数/拠点床面積）を2030年までに18%改善する。

食料システムへの寄与

サプライチェーン全体の効率化、生産性の向上、各品目の需給バランスの改善を通じた合理的な費用を考慮した価格形成の推進、これらを通じた持続的な食品の供給体制の確立に貢献する。

※レベニューシェア型農産物流通事業：AIなどを用いた需要予測に基づき、生産者側と小売側のマッチングを実施。それに基づき、売上収益を生産者を含めたサプライチェーン関係者間で、あらかじめ定めた料率に基づいて分配する仕組み。

計画のイメージ



(2025年12月17日認定)